

東町側留保地の防衛省の利用に対する市の考え

1. 総論

市では、東町側留保地については公的利用すべきものとして、緩衝緑地ゾーン及び健康・スポーツ・医療ゾーンからなる施設整備構想を内容とする利用計画を平成20年6月に財務省へ提出している。

しかしながら、財政的な事情により利用計画を具体化するには至っておらず、今後とも難しい状況と考えている。

一方、防衛省が災害対処拠点及び自衛隊病院を東町側留保地に整備する必要性については、特に今後発生が予想されている首都直下地震に対応するための災害対処拠点は、国民の安全・安心のためにはできる限り早期の完成が望まれるものであり、理解するところである。

防衛省は、施設を整備するにあたり、その整備内容について市の利用計画に十分配慮するとしている。さらに防衛省により整備される施設が単に防衛省による利用に留まらず、市の財政負担なしに市民福祉の向上にも資するものであるならば、防衛省による利用を受け入れたいと考えている。

2. 災害対処拠点

防衛省の計画

(1) 施設の内容

〔平時利用〕

主として、入間基地所在部隊の訓練を実施する計画であり、また、造成した展開用地の一部は運動場として整備する予定

(2) 市民利用

- ① 留保地に整備予定の運動場は、入間基地が使用していない時間帯かつ土・日、休日及び平日夜間を基本として、市民の利用にも供する
- ② 開放を予定しているエリアは訓練場の一部
- ③ 用地の使用については原則無償
- ④ 開放に当たっては、当該運動場が所在する地元市民が可能な限り有効かつ円滑に利用できるよう配慮
- ⑤ 利用の手続き、時間帯等の細部については、入間基地と入間市との間で協議の上決定

- (1) 地元市民が運動場を利用できることは、健康・スポーツ・医療ゾーンとして総合運動公園、多目的広場等の整備を構想した市の利用計画の趣旨に合致する。
- (2) 整備費の負担なしに原則無償で利用できることは市にとって有利である。
- (3) 使用に際し例外的に負担することになる経費、利用手続き等の細部については、市民の使いやすさを基本に防衛省と協議していく。

- (4) 運動場の具体的整備内容が現時点では示されていないが、陸上競技場（４００メートルトラック）及びサッカー等に利用可能な多目的広場の整備を要望していく。

3. 自衛隊病院

防衛省の計画

(1) 施設の内容

〔標榜科〕

既存の自衛隊病院と同程度の診療科を基本とし、新たに救急科、歯科口腔外科、航空医学診療科を整備予定

(2) 市民利用

〔２次救急の受入れ〕

職域病院としての自衛隊員の診療に支障をきたさない範囲で、地域医療機関及び医師会と協議の上、地域消防機関により救急搬送されてくる２次救急患者を受入れ、地域医療に貢献

- (1) 健康・スポーツ・医療ゾーンとして病院等医療施設の整備を構想した市の利用計画の趣旨に合致する。
- (2) 市外の病院への救急搬送が多い現状があり、市内の２次救急受入れ先が増えることは、市民福祉の向上に貢献する。
- (3) 現時点で不確定の次の事項については、引き続き検討を要請していく。
- ① 所沢地区小児科救急医療輪番病院への参加
 - ② 市内病院等から紹介のあった救急患者の受入れ

4. 緑地帯

防衛省の計画

周辺の市街地からの景観等に配慮し、施設の外縁部に緑地帯を設置

- (1) 緩衝ゾーンの設置を構想した市の利用計画の趣旨に合致する。
- (2) 具体的な整備内容については今後確認し、必要に応じ調整していく。

5. その他

- (1) 留保地を含む基地周辺の環境整備への配慮を防衛省に要請していく。
- (2) 工事中及び完成後の運用における地元への配慮を防衛省に要請するとともに、必要に応じ調整していく。